

メキシコ経済と世界同時不況の影響

内多 允 *Makoto Uchida*

(財)国際貿易投資研究所 客員研究員

08 年後半から世界的な規模で景気後退が進行しており、メキシコもその影響を受けている。08 年後半からは、製造業部門の輸出減少が国内経済の不振を招いた。特に自動車や電子工業部門の輸出減少が、製造業の成長停滞を招いた。これには米国経済の低迷による輸出減少が影響している。輸出と並んで、重要な外貨収入源である海外からの直接投資や郷里送金(国外からの労働者送金)も減少している。

縮小した 08 年のメキシコ経済

08 年に入って、メキシコ経済は縮小傾向を示すようになった。同年における四半期ベースの GDP 実質成長率は、第 1 四半期 (1Q) 2.6%、2Q2.9%、3Q1.7%から 4Q はマイナス 1.6% を記録した。08 年通年の同成長率は上半期の比較的好調な成長が、4Q のマイナス幅を相殺して 1.3% というプラス成長を維持した。このよ

うにメキシコ経済も 08 年 4Q からは世界同時不況の影響が顕著であることが、経済指標にも表れている (表 1)。

メキシコの生産部門の成長を牽引してきた輸出も通年ベースでは 1.4% で GDP を上回る伸びであった。1Q から 3Q の各期間では GDP を上回る伸びを示した輸出であったが、4Q にはマイナス 8.6% に低下した。

GDP 総額の約 7 割を占める民間消費は 08 年通年では 1.5% の伸びであ

ったが、4Q は 1.3%減と振るわなかった。民間消費の低迷には賃金や雇用の低迷が影響している。賃金の伸び率は 08 年 2Q からは、インフレ率

よりも低くなっている。08 年通年の名目賃金伸び率は 5.4%で、インフレ率はこれを超える 6.5%であった(表 2)。

表 1 GDP 対前年同期比伸び率推移

(単位 %)

| | 07 年 | 08 年 1q | 08 年 2q | 08 年 3q | 08 年 4q | 08 年 |
|------|------|---------|---------|---------|---------|------|
| GDP | 3.3 | 2.6 | 2.9 | 1.7 | ▲1.6 | 1.3 |
| 消費合計 | 3.6 | 2.6 | 2.5 | 1.9 | ▲1.1 | 1.4 |
| 民間消費 | 3.9 | 2.8 | 2.7 | 2.2 | ▲1.3 | 1.5 |
| 公共消費 | 2.1 | 0.9 | 1.1 | 0.3 | 0.1 | 0.6 |
| 投資合計 | 7.2 | 3.0 | 8.4 | 8.1 | 0.6 | 4.9 |
| 民間投資 | 5.8 | 2.9 | 10.0 | 5.7 | ▲10.4 | 2.1 |
| 公共投資 | 12.9 | 3.6 | 1.4 | 17.3 | 30.5 | 15.8 |
| 輸出 | 5.7 | 5.9 | 6.6 | 2.7 | ▲8.6 | 1.4 |

(注) 08 年 1q から 08 年 4q は各 4 半期の数値。

(出所) メキシコ中央銀行 2008 年報告 (09 年 4 月 30 日発表) 29 頁 表 3 より作成。

表 2 インフレ率・賃金上昇率とペソ安傾向

| | 07 年 | 08 年 1q | 08 年 2q | 08 年 3q | 08 年 4q | 08 年 |
|--------|-------|---------|---------|---------|---------|-------|
| インフレ率 | 3.8 | 4.2 | 5.3 | 5.5 | 6.5 | 6.5 |
| 名目賃金 | 5.4 | 4.7 | 5.2 | 5.6 | 6.1 | 5.4 |
| 対ドルレート | 10.93 | 10.80 | 10.43 | 10.32 | 13.05 | 11.15 |

(注) インフレ率(期末)と名目賃金の単位は、パーセント表示による年率換算の上昇率。

対ドルレートの単位はペソで、期中平均。

(出所) Banamex, Pronosticos Macroeconomicos より抜粋。

個人消費の動向に左右されやすい小売販売も政府統計によれば08年9月以降は減少している。その減少率（年率）は9月1.4%、10月1.1%、11月2.6%、12月3.3%で09年1月には4.6%となり、5か月連続の低下を記録した。ペソの対ドルレートも07年から08年第3四半期の10ペソ台から、第4四半期には13.05ペソに減価した（表2）。ペソ安傾向が輸入コストを引き上げることによるインフレ助長は避けられない。

雇用情勢の悪化も消費を冷え込ませる要因になっている。08年の失業率（全国平均）は6月の3.6%から7月から12月の各月は4%台となり、09年に入って1月5.0%、2月5.3%になっている。08年における失職者

数は1か月平均25万7,000人（メキシコ中央銀行による）に上る。

急速に減少した輸出

メキシコ経済停滞の背景要因としては輸出不振の影響が製造業に及んだことがあげられる。

メキシコの輸出は商品構造と輸出先に次のような2点の特色を有している。第1点は、メキシコの主要な輸出商品は電気・電子機器と自動車の工業製品（最終製品と部品の両方を含む）と石油である。08年の輸出実績によれば、これら3部門を合わせた輸出額は総輸出額の55.4%に上る（表3）。

表3 メキシコの輸出動向

| | 08年 | | 輸出額前年同期比伸び率 (%) | | |
|---------|----------|---------|-----------------|------|---------|
| | 輸出額 | 構成比 (%) | 07年 | 08年 | 09年1-2月 |
| 総額 | 291342.6 | 100.0 | 8.8 | 7.2 | ▲30.6 |
| 石油 | 43341.5 | 14.9 | 9.3 | 14.2 | ▲55.4 |
| 電気・電子機器 | 75214.8 | 25.8 | 14.0 | 7.0 | ▲21.4 |
| 自動車 | 42821.6 | 14.7 | 6.1 | 2.2 | ▲43.5 |

（注）輸出額単位は100万ドル。総額には同表に記載されていない部門の輸出も含む。

（出所）メキシコ統計地理情報院（INEGI）、Balanza Comrcial de Mexico, 09年4月より抜粋。

第2点はメキシコの最も重要な輸出市場は米国である。その対米依存度は徐々に低下しているとは言え、08年で約8割を占めている(表4)。

メキシコの貿易にとって米国市場が重要な理由は、このような輸出規模の大きさに加えて最大の出超を計上していることである。

メキシコの貿易収支は入超となる年が多い。08年も輸出総額約2,913億4,200万ドル、輸入総額約3,086

億300万ドルで、収支は172億6,100万ドルの入超を計上した。その中で、対米貿易については821億8,800万ドルの黒字を計上した。

メキシコの対米輸出の商品構成の特徴を、米国の輸入統計から見ると(表5)、その金額上位5品目を合わせた構成比(対メキシコ輸入総額に占める割合)は74.1%で、第2位の石油(同比率19.7%)を差し引いた工業製品4部門で54.4%を占めている。

表4 非石油部門の輸出構成比と伸び率推移

(単位 パーセント)

| | 輸出構成比 | | 08年対前年同期比 四半期別と年間 | | | | |
|----------|--------|--------|-------------------|-------|--------|--------|-------|
| | 07年 | 08年 | 1q | 2q | 3q | 4q | 年間 |
| 総輸出 | 100.00 | 100.00 | 10.39 | 11.41 | 8.16 | ▲8.04 | 5.17 |
| <米国> | 82.55 | 79.86 | 7.31 | 6.39 | 4.32 | ▲10.05 | 1.75 |
| 自動車 | 20.41 | 18.57 | 8.11 | ▲2.08 | ▲10.68 | ▲11.01 | ▲4.32 |
| その他 | 62.14 | 61.29 | 7.05 | 9.29 | 9.36 | ▲9.75 | 3.74 |
| <他の国・地域> | 17.45 | 20.14 | 25.74 | 36.35 | 25.77 | 0.82 | 21.34 |
| 自動車 | 4.11 | 4.57 | 38.25 | 38.22 | 9.28 | ▲7.28 | 16.78 |
| その他 | 13.34 | 15.57 | 22.21 | 36.20 | 31.35 | 3.43 | 22.74 |
| 自動車合計 | 24.52 | 23.14 | 12.75 | 3.85 | ▲7.08 | ▲10.31 | ▲0.78 |
| その他合計 | 75.48 | 76.86 | 9.65 | 13.93 | 13.28 | ▲7.32 | 7.10 |

(注) メキシコの非石油輸出品を自動車とその他に2分して集計。これらの輸出先を「米国」と「その他の国・地域」に2分している。

(出所) 表1と同じ資料 表14、47頁

表5 米国の対メキシコ輸入額上位5品目

| 順位 | 品目 | 07年 | 08年 | シェア | 08年1-2月 | 09年1-2月 |
|----|-------------|------|------|-------|---------|---------|
| | 総額 | 2102 | 2163 | 100.0 | 344 | 249 |
| 1 | 電機・電子機器 | 548 | 534 | 24.7 | 85 | 67 |
| 2 | 石油 | 335 | 426 | 19.7 | 61 | 36 |
| 3 | 自動車・同部品 | 339 | 321 | 14.8 | 51 | 29 |
| 4 | 機械機器・同部品 | 248 | 247 | 11.4 | 41 | 30 |
| 5 | 光学・精密機器・同部品 | 76 | 75 | 3.5 | 13 | 11 |

(注) 順位は08年の輸入額による。単位はシェアについてはパーセント、その他は億ドル。シェアは総額に占める比率。

(出所) USITC (米国国際貿易委員会) 統計より作成。

08年における輸出総額の対前年比伸び率は7.2%増であったが、対米輸出の同伸び率は4.4%増に止まった。この輸出伸び率を非石油部門に限って見ると(表4)、同総額の08年対前年比約5.2%の伸びであるが、同年4Qは8.0%減になっている。

非石油部門の対米輸出総額は対07年比約1.8%増であったが、08年4Qの対前年同期比では約10.1%減に落ち込んだ。自動車の対米輸出は08年2Qから4Qの各期間の伸び率はいずれもマイナスを計上して、通年でも4.3%減となった(表4)。

米国における消費停滞が、メキシコからの輸入を減少させている傾向

は、米国側が発表した09年1-2月の輸入統計からもうかがえる(表5)。同表によれば09年1-2月における対メキシコ輸入総額(249億ドル)は、前年同期比27.6%減少した。主要な商品の輸入は軒並み減少した。

影響が大きい製造業の不振

メキシコの主要な輸出産業である製造業は海外需要の減少市場不振によって、生産縮小に追い込まれた。08年のGDP成長率が1.3%であるが、その内訳を構成する製造業は07年の2.6%の成長から08年は0.4%減となった。

メキシコ中央銀行の調査によれば

生産設備を拡充した製造企業の割合は、07年の32%から08年には27%に低下した。

同国の大手銀行 Banamex の調査（09年3月25日付工業製品輸出についての報告による）では、工業製品生産額の4割が輸出向けであり、また輸出総額のほぼ8割が工業製品であると指摘している。

製造業の部門別成長率は主要な輸出産業である輸送機器（主力は自動車生産）や電子機器も07年に比べて

成長率を低下させた（表6）。輸送機器部門の主力産業である自動車生産の動向は部品や資材の広範囲な関連産業に影響を与える。それだけに自動車の輸出減少による生産停滞の影響は深刻である。電子機器産業が08年に対前年比13.6%減少したが、これは同表が対象とする21部門で

は、最も大幅な減少率である。これら21部門でマイナス成長を計上した部門数は07年の6部門から、08年には13部門に倍増した。

表6 メキシコの製造業成長率

(単位 %)

| 製造業部門 | 成長率 | | 対GDP比率 |
|----------|------|-------|--------|
| | 07年 | 08年 | 08年 |
| 製造業全体 | 2.6 | ▲0.4 | 17.6 |
| 食品 | 2.4 | 1.4 | 3.8 |
| 輸送機器 | 8.6 | 3.6 | 3.3 |
| 化学 | 2.0 | ▲1.3 | 1.7 |
| 非金属鉱業製品 | 2.7 | ▲2.3 | 1.2 |
| 飲料・タバコ | 3.2 | 1.8 | 1.1 |
| 基礎金属 | ▲1.5 | ▲0.5 | 1.0 |
| 電子機器・同部品 | 1.2 | ▲13.6 | 0.8 |

(注) 製造業全体の内数を構成する21部門から、08年の対GDP比率が上位7部門を対象とした。

(出所) 表1と同じ。122頁、表A10より抜粋。

製造業の低迷は雇用の減少を招いている。社会保険庁（IMSS）による社会保障手当での支給対象者の産業別の給与総額シェアによれば製造業部門が27.9%を占め、最も高いシェアを有している。08年における雇用者は全体では1.1%増であったが、製造業は2.3%減少した。

需要減少に直面する自動車産業

メキシコで輸出依存度が高いが故に08年後半からの世界同時不況の影響を受けている典型的な業種が、自動車産業である。同国の自動車産業の主力部門は、乗用車である。また、商業車部門も停滞している。

メキシコの乗用車生産の特色はメーカーが外資系で占められていること、主要な市場は国内よりも輸出が多いことである。特に米国市場への依存度が高い。08年の生産台数は210万3,013台で、対前年比伸び率は07年の9.7%から、08年4.0%に低下した。輸出台数（08年166万1,406台）の同伸び率も3.0%で、07年の15.5%から大幅に低下した。08年における輸出の伸び悩みは11月と12

月の前年同月比がそれぞれ7.7%、10.0%減少したことが影響している。

メキシコ自動車工業会（略称AMIA）に加盟している乗用車メーカー8社の内、3社が米国資本（クライスラー、フォード、GM）である。これら3社は08年において、AMIA加盟8社のメキシコにおける総生産台数の52%を、また同国からの前記輸出総台数の55%を占めた。他のメーカーの主要な輸出先も米国であり、各社のメキシコ工場は米国市場のための生産拠点としての役割を担っている。

米国の消費が冷え込むに伴って、メキシコの乗用車メーカーの減産傾向は、09年に入って一層顕著になっている。同年1-3月期の統計（表7）によれば、生産と輸出、国内販売のいずれの台数も前年同期より減少した。特に同期においても輸出比率が約8割を占めているだけに、輸出が約4割も落ち込んだことによるメーカーの収益悪化は深刻である。

この時期の輸出台数（表7参照）の約72%（16万6,025台）が米国向けである。前年同期に対して減少した輸出台数は15万7,598台であるが、

この内米国向け減少台数が約 7 割 (10 万 9,592 台) に上る。

米国における 09 年 1-3 月期における乗用車販売台数は、前年同期比 38.3%減少した (表 8)。この中でメキシコ車は同 39.8%減となっている。この期間に米国における輸入車の販売台数は前年同期に比べて、34 万 6,516 台減少したがこの内、メキシコ車が

10 万 9,592 台 (31.6%) を占めた。

米国市場の購買力がメキシコよりも大きいだけに、メキシコ企業にとって米国で販売不振に陥る痛手は大きい。乗用車の場合、人口 1,000 人当たりの新車販売台数は近年は低下しているとは言え、メキシコよりも購買力が大きい市場を形成している (表 9)。

表 7 09 年 1 - 3 月期のメキシコ乗用車産業

| | 台数 | 前年同期比 (%) |
|------|---------|-----------|
| 生産 | 291,800 | ▲40.7 |
| 輸出 | 230,725 | ▲40.6 |
| 国内販売 | 195,484 | ▲25.9 |

(注) 国内販売台数はメーカーから販売店への出荷台数
(出所) メキシコ自動車工業会 (AMIA)

表 8 米国の乗用車販売 (09 年 1 - 3 月期)

| | 台数 | 前年同期比 (%) |
|----------|-----------|-----------|
| A) 販売総数 | 2,197,239 | ▲38.3 |
| B) 米国車 | 1,408,292 | ▲42.0 |
| C) 輸入車 | 788,947 | ▲30.5 |
| D) メキシコ車 | 166,025 | ▲39.8 |

(注) 販売総数は B と C の合計。メキシコ車は輸入車の内数。
(出所) 表 7 と同じ。

表9 人口1,000人当たりへの新車販売台数

| 国名 | 06年 | 07年 | 08年 |
|--------|------|------|------|
| メキシコ | 11 | 10 | 9 |
| 米国 | 55 | 53 | 44 |
| ブラジル | 10 | 13 | 14 |
| アルゼンチン | 12 | 14 | 15 |
| (メキシコ) | (23) | (20) | (17) |

(注) () 内のメキシコの数値は新車に輸入中古車を合わせた販売台数。
(出所) 表8と同じ。

トラック等の商業車の生産や輸出規模は乗用車に比べて、小さいがやはり生産活動の低迷を反映して、需要の減少に直面している。

商業車(トラック、バス等の産業用車両)の08年における生産台数(7万8,993台)は前年比8.7%減少した。同年の国内販売台数(メーカーから販売店への出荷台数で、輸入も含む)は5万258台で同3.1%減少した。また同年の輸出(3万6,741台)は7.9%減少した。09年1-3月期の生産(1万478台)は、前年同期比46.3%減であった。また、国内販売台数(4,752台、輸入も含む)も同59.7%減、輸出(7,664台)は19.6%減であった(商業車のデータはメキシコのメーカー組織である全国バス・トラック・ト

ラクター生産者協会、略称ANPACTの統計より引用)。

崩れる石油価格高騰への依存

製造業と並んで石油の輸出も減少した。近年、メキシコの原油生産量と輸出量も減少している。しかし、価格高騰のために輸出額は増え続けてきた(表10)。

石油価格は08年から下降傾向が顕著になり、メキシコの石油輸出額もその影響を受けている。メキシコの原油価格(1バレル当たりの平均価格)は、次のように値下がりしている。

同価格は06年平均が53.04ドルであったが、07年には61.64ドル、08年には84.35ドルに上昇した。しか

し、08年の月間平均価格は、年末に近づくにつれて下がり続けた。08年の最高価格は7月の120.25ドルで、8月からは下がり続けて12月には33.27ドルにまで値下がりした。09年に入ってから1月37.60ドル、2月37.86ドルであり、かつての値上がりは当面出来そうにない。

メキシコの原油や天然ガス、基礎石油化学部門の生産や流通、貿易を独占している PEMEX（国営石油会社）の貿易収支への貢献度も、低迷している。PEMEX の輸出額（原油と関連品を含む）が、メキシコの輸出総額に占める比率は04年から06年においては、20%台（06年27.9%）であったが、07年16.7%、08年17.0%に落ちている。一方、PEMEX による輸入額は04年の55億6,500万ドルから08年には234億6,600万ドルと4.2倍に規模に膨れ上がった。同じ期間に輸出は234億2,200万ドルから495億5,100万ドルへ2.1倍の規模に止まっている。

石油価格の低迷は、メキシコ政府の財政収支にも影響する。08年9月に財務省は議会に09年政府予算案を提案した。同案では石油部門から

の歳入（PEMEX からの納税や納付金）は1兆1,990億ペソ（前年比12.4%増）で、歳入予算総額（2兆8,207億ペソ）の36%を占めている。同予算を裏付けるための経済見通しによれば、原油平均価格（バレル当たり）は80.3ドル（08年96.5ドル）、石油の輸出量（平均日量）は133万6,000バレル（同146万1,000バレル）としている。これらの数値は08年に比べて低い見通しとは言え、価格の実態は既にこれを下回っていることから、石油部門からの歳入も見直さざるを得なくなるだろう。

減少した海外資金の流入

世界的な不況の影響はメキシコの主要な対外資金流入源である投資や家族送金の減少を招いている。

メキシコへの海外からの投資資金の08年における流入額（対内直接投資と証券投資の合計）は218億1,240万ドルで、前年（357億3,850万ドル）に対して40.0%減少した（表11）。対内直接投資の流入額は185億8,930万ドルで、前年比31.6%減となった（表12）。同投資の内訳である

新規直接投資額は07年131億6,010万ドルから08年は37億1,380万ドルへ、71.8%減少した。対内直接投

資に占める新規投資の割合は07年の48.4%から、08年には20.0%に半減した。

表10 メキシコ原油の生産と輸出

| | 06年 | 07年 | 08年 |
|----------------------|-------|-------|-------|
| 原油生産量（日量 1,0000 バレル） | 3256 | 3076 | 2792 |
| 輸出量（同上） | 1793 | 1686 | 1403 |
| 輸出額（100万ドル） | 34707 | 37937 | 43324 |
| 輸出量前年比伸び率 | ▲2.8 | ▲6.0 | ▲16.8 |
| 輸出額前年比伸び率 | 22.5 | 9.3 | 14.2 |

（出所）PEMEX（国営石油会社）石油統計月報 09年2月より作成

表11 海外からメキシコへの投資流入

（単位 100万ドル）

| | 07年 | 08年 |
|--------|---------|---------|
| 対内直接投資 | 27166.8 | 18589.3 |
| 証券投資 | 8571.7 | 3223.1 |
| 以上合計 | 35738.5 | 21812.4 |

（出所）表1と同じ。表A63、172頁より抜粋。

表12 メキシコへの対内直接投資

（単位 100万ドル）

| | 07年 | 08年 |
|----------|---------|---------|
| 対内直接投資総額 | 27166.8 | 18589.3 |
| 新規投資 | 13160.1 | 3713.8 |
| 利益再投資 | 8024.1 | 7530.4 |
| 親子会社間勘定 | 5982.7 | 7345.1 |

（出所）表11と同じ。

対内直接投資総額の主な部門構成は比率は製造業 33.1%、鉱業 22.9%、金融 22.1%、商業 9.3%である。投資国の内訳によれば米国からの投資が 45.7% (84 億 9,820 万ドル)、次いでカナダ 11.8%、スペイン 11.1%の順となっている。最大の投資国である米国からの直接投資額は 07 年 (114 億 9,630 万ドル) から 26.1%減少した。

業種別では製造業への投資 (61 億 6,090 万ドル) は 07 年に比べて 48.8% 減少した。対内直接投資総額に占める製造業の割合は 07 年の 44.2% から 08 年は 33.1%に低下している。

メキシコにおける外資系製造業の進出動機はメキシコ国内の市場開拓と並んで、輸出品の生産拠点を築くことである。特に相対的に賃金コストが低いことが、米国向け輸出品生産拠点を求める外資の進出を促してきた。これがメキシコの工業製品輸出拡大にも貢献してきた。しかし 08 年から米国経済が不況に陥ったことが外資系企業のメキシコへの直接投資を抑制させている。

証券投資も前年比 68.0%減少した。これはメキシコ企業の株価下落が、

海外投資家の投資意欲を失わせたことによる。特に 08 年第 3 四半期と第 4 四半期に 2 期連続して、証券投資については流失超過 (2,400 万ドル、49 億 9,300 万ドル) を記録した。

メキシコの外貨収入源として、家族送金の規模も無視できない。これは移民や出稼ぎのために海外に居住しているメキシコ人 (既に居住国の国籍や永住権を確保している居住者も含む) が、メキシコに送金する外貨である。世界銀行の調査によれば、メキシコが受け取る家族送金の金額は世界第 2 位の規模 (1 位はインド) である。同行のデータによればメキシコの GDP に占める家族送金の比率は 05 年から 08 年においては 2%台 (08 年は 2.3%) に上る。08 年の家族送金額は 07 年とは逆に、対内直接投資額 (表 12 参照) を上回っている。

メキシコ中央銀行によれば、08 年の家族送金額 (251 億 3,740 万ドル) は前年 (260 億 6,870 万ドル) に比べて 3.6%減少した (表 13)。同中央銀行の統計で家族送金が減少を記録したのは、1995 年に統計を作成するようになってからは、初めてのことである。

表 13 国外からの家族送金

| | 07 年 | 08 年 |
|----------------|---------|---------|
| 送金総額 (100 万ドル) | 26068.7 | 25137.4 |
| 送金回数 (1000 回) | 75701.0 | 72627.0 |
| 平均送金額 (ドル) | 344 | 346 |

(出所) 表 1 と同じ。171 頁、表 A61 より抜粋。

この送金者の大部分は米国におけるメキシコ系居住者である。送金が減少している最大の要因は、米国の雇用環境が悪化したことがあげられる。米国に住むヒスパニック（メキシコ系を含む中南米出身者）を対象とする調査（Pew Hispanic Center が 09 年 1 月 8 日付で発表した Hispanics and the Economic Downturn による）によれば、08 年に送金額を減らしたという回答者が 68% を占めた（変わらないという回答は 22%、増やすは 10%）。住宅についても 36% のヒス

パニックが、差し押さえを心配していると答えた。この中で米国外出身のヒスパニックがこれを心配していると答えた比率は 53% に上る。このような経済環境が、送金を減少させる状況を生んでいると考えられる。

メキシコ経済はここで取り上げたように海外要因、特に米国の経済動向の影響を強く受けている。これに加えて、09 年 4 月にメキシコ国内で新型インフルエンザの感染が広まったことによる経済活動の停滞も無視できない。